



文部科学省後援 第8回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会 報告書

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日程：2022 年 12 月 24 日（土）、25 日（日）

（1 日目）予選 4 試合、（2 日目）準々決勝、準決勝、決勝、キーノートレクチャー

会場：オンライン開催（Zoom）

主催：一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

共催：東京大学生産技術研究所、大阪公立大学

後援：文部科学省、朝日新聞社、朝日中高生新聞、全国高等学校長協会、一般社団法人
日本英語交流連盟、一般社団法人 日本高校生パーラメンタリーディベート連盟

協賛：東京大学生産技術研究所次世代育成オフィス（ONG）

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

参加校：



（北海道）北海道釧路湖陵高校（青森県）青森県立青森高校、八戸聖ウルスラ学院高校（岩手県）岩手県立一関第一高校、岩手県立盛岡第一高校、盛岡中央高等学校（宮城県）仙台市立仙台青陵中等教育学校（秋田県）秋田県立本荘高校（山形県）山形県立東桜学館高校、山形県立山形東高校（茨城県）清真学園高校、東洋大学附属牛久高校（栃木県）栃木県立宇都宮高校、栃木県立宇都宮東校、栃木県立佐野高校、作新学院高校（群馬県）群馬県立前橋高校（埼玉県）埼玉県立浦和高校、埼玉県立浦和第一女子高校、さいたま市立浦和高校（千葉県）翔凖高校、渋谷教育学園幕張高校、東邦大学附属東邦高校（東京都）東京都立日比谷高校、東京都立小石川中等教育学校、東京都立武蔵高校、東京都立富士高校、東京都立三田高校、千代田区立九段中等教育学校、筑波大学附属駒場高校、渋谷教育学園渋谷高校、獨協高校、品川女子学院高等部、山崎学園富士見高校（神奈川県）神奈川県立相模原高校、神奈川県立茅ヶ崎北陵高校、神奈川県立多摩高校、神奈川県立柏陽高校、神奈川県立横浜翠嵐高校、神奈川県立湘南高校、聖光学院高校、栄光学園高校、浅野高校、湘南白百合学園高校、慶應義塾高校（富山県）富山国際大学付属高校（福井県）福井県立藤島高校（長野県）長野県長野高校、長野県伊那北高校、長野県屋代高校、長野県松本県ヶ丘高校（岐阜県）岐阜県立岐阜高校（静岡県）静岡県立静岡高校（三重県）三重県立四日市高校、三重県立川越高校（滋賀県）滋賀県立彦根東高校（京都府）京都府立嵯峨野高校、京都市立日吉ヶ丘高校（大阪府）大阪府立北野高校、関西大倉高校、関西創価高校（兵庫県）神戸大学附属中等教育学校、神戸市立葺合高校、雲雀丘学園高校（奈良県）奈良県立奈良高校（鳥取県）鳥取県立鳥取西高校（徳島県）徳島県立城ノ内高校（福岡県）福岡県立東筑高校、福岡県立城南高校、福岡県立香住丘高校（熊本県）熊本県立熊本高校、熊本県立八代高校、熊本県立熊本商業高校、真和高校（鹿児島県）鹿児島県立大島高校、鹿児島県立鹿児島中央高校、鹿児島県立鶴丸高校

(沖縄県) 沖縄県立球陽高校、沖縄県立前原高校 (滋賀県) 滋賀県立膳所高校 合計 79 校

開催趣旨：

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進しています。

本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。(参照：文部科学省助成事業 <http://englishdebate.org/debate/>)

論題 (論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます)：

予選 1：Being single is better than getting married in the modern world.

(これからは結婚するよりも、独身の方がよい。)

予選 2：Japan should increase defense spending.

(日本は防衛費を増額すべきである。)

予選 3：Online education should be introduced in junior high and high schools, and school districts should be abolished.

(中高ではオンライン教育を導入し、学区を撤廃すべきである。)

予選 4：Students should be instructed in debate by AI rather than by teachers.

(生徒は、教員よりも AI にディベートを指導されたほうがよい。)

準々決勝：Consumer behavior (ownership and use of things) should be limited to achieve carbon neutrality.

(カーボンニュートラル実現のために、消費者の行動(所有、利用)は制限されるべきである。)

準決勝：Entrepreneurship should be pursued rather than employment at a big company.

(大企業での就職よりも、起業を目指すべきである。)

決勝：Living in the U.S. will be better than living in Japan in the future.

(将来は、日本に住むよりもアメリカに住む方がよい。)

キーノートレクチャー講師：

- Robust Intelligence 共同創業者 大柴行人氏
- 東京大学生産技術研究所 特任教授 岩船由美子氏
- 株式会社アドダイス 代表取締役 CEO 伊東大輔氏

1 日目

本大会は昨年に引き続き、オンラインでの開催となりました。北は北海道から南は沖縄まで、全国から高校生・教員・見学者が Zoom のミーティングルーム内に集まりました。数多い参加者で画面が埋め尽くされました。大会でのルール諸注意、PDA 認定教育ジャッジの紹介、ジャッジ手順の確認が行われました。対面大会ではディベート後に対戦相手全員と握手をしますが、オンライン開催の今大会ではエアー握手を交わします。開会式の最後には、エアー握手の練習が行われ、画面越しに全員で握手を交わしました。



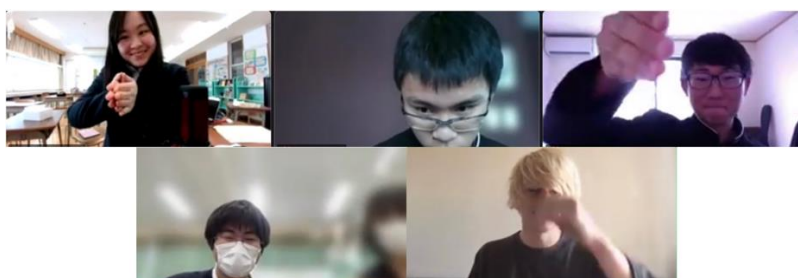
開会式の様子



エアー握手の練習

開会式が終わると早速 39 テーブルでの予選が始まります。1 日目は予選が 4 試合行われ、その結果を受けて決勝トーナメント戦に進出するチームが決まります。予選 1 の論題は「これからは結婚するよりも、独身の方がよい。」です。様々な家族の形が見られ、結婚を考えない人も増えている今日、様々な意見が飛び交いました。

予選 1 試合後は昼休みです。季節に合わせた部屋の飾り付けをした学校もありました。



予選 1 エアー握手の様子 (岐阜高校 VS 富士高校)

予選 2 の論題は「日本は防衛費を増額すべきである。」です。日本政府は 11 月末に行われた有識者会議の報告書を基に国家安全保障戦略などの防衛三文書を年末に策定する予定です。1 試合目でジャッジにもらったアドバイスなどを参考にしながら、さらにレベルの高いディベートが行われました。防衛力の抜本的強化、反撃能力の保有、米国依存から脱する自衛力強化、防衛力強化の財源などに関して議論沸騰する様子が見られました。



予選2 POI！（釧路湖陵高校 VS 川越高校）

予選2と予選3の間にPDA代表理事中川よりレクチャーが行われました。レクチャーでは、PD検定®（パラメンタリーディベート検定）の説明、学校会員の説明が行われました。PD検定は、英語での論理的表現力を測る試験で、英語で議論する力が身につく問題設計をしています。また、PDA学校会員の説明ではPDA自動ディベートワードシステムなどの特典の紹介が行われました。

13:35~14:10

レクチャー

レクチャー PD検定®（パラメンタリーディベート検定）

- パラメンタリーディベート検定®(PD検定®)とは、英語での論理的表現力を測る試験です。
- PD検定®では、英語で即興でディベートを実践することを通し、「英語で議論する力」※が身につく問題設計をしています。

レベル	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
3	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
4	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
5	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
6	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
7	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
8	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
9	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
10	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

13:35~14:10

レクチャー

PD 検定について

13:35~14:10

レクチャー

レクチャー PDA学校会員

PDA自動ディベートワードシステム

自動で関連単語もしくは記事URLから取得した単語が同様に得られます。システムで自動的に載せた単語を選択。

400語、フレーズを厳選して取り込むことも可能。

この画面のページで、参考記事を挿入できます。

13:35~14:10

レクチャー

PDA 学校会員について

予選3の論題は「中高ではオンライン教育を導入し、学区を撤廃すべきである。」です。公立中学校で指定校以外に「学校選択制」が導入されて約10年が経過し、成果や課題が明確になってきました。同時にコロナ禍によるオンライン教育の導入の加速に伴い、新たな教育の形態が生まれ改革が進んでいます。今まさにこのような教育改革を身近に体験しているディベーター達が、リアルな意見を出し合って議論を深める姿が見られました。



サンタ帽を被って交流する様子（一関第一 VS 日比谷） 交流の様子（関西創価 VS 熊本商業）



予選3 ジャッジによるフィードバック（盛岡中央高校 VS 球陽高校）

予選4の論題は「生徒は教員よりもAIにディベートを指導されたほうがよい。」です。近年、AI・人工知能の技術が発展したことにより、多くの業種でAIが導入されるようになりました。私たちの日常生活にもAIが活用されるようになり、非常に身近な存在になりました。そのような中、教育分野においてもAIが活用され始めていることで注目を集めています。今回はその中でも特に身近なディベートのAI教育に関するテーマで、生徒にとってもたいへん関心の高い論題でした。第4ラウンドは試合後のジャッジからの勝敗の発表はありません。翌日のブレイクアナウンスメントをお楽しみに！



真和高校



日吉ヶ丘高校



八代高校



準備時間の様子（北野高校）



果敢にPOI！（奈良高校）



予選4 ディベート後のエアー握手（市立浦和高校 VS 渋谷教育学園渋谷高校）

第4ラウンドが終了すると外はすっかり暗くなっていました。熱中していた時間の長さに驚きを隠せません。生徒達は、4試合を全力投球で成し遂げた達成感を胸に素敵な笑顔で1日目に幕を下ろしました。大会1日目はクリスマスイブでした。1日頑張った生徒の皆さん、本当にお疲れ様でした。素敵な夜をお過ごしください！



一関第一高校



真和高校



日吉ヶ丘高校



翔凜高校



鳥取西高校



神大附属中等教育学校



宇都宮東高校



八代高校



鹿児島中央高校

2日目

2日目の最初は、決勝トーナメントに進むチームの発表です。

まずは、ジャッジブレイクの発表です。教員や社会人、大学生によるジャッジは、勝敗を決め、ディベーターである生徒にその理由と個人コメントを、教育的配慮をしつつ論理的に述べます。ジャッジのコメントに対して、どの程度生徒が納得できたか、またどの程度次への学習意欲を高めることができたかという観点で、生徒はジャッジを10段階評価します。平均点が高かった30名の先生が発表されました。おめでとうございます。上位に選ばれた先生は決勝トーナメントでジャッジを務めていただきます。

次に、準々決勝に出場するチーム1位から8位までが発表されました。喜びの音が響き渡りました。

予選結果

- 予選1位 聖光学院高等学校
- 予選2位 神戸大学附属中等教育学校
- 予選3位 栄光学園高等学校
- 予選4位 山形県立東桜学館高等学校
- 予選5位 筑波大学附属駒場高等学校
- 予選6位 長野県長野高等学校
- 予選7位 岐阜県立岐阜高等学校
- 予選8位 福井県立藤島高等学校

準々決勝の論題は「カーボンニュートラル実現のために、消費者の行動（所有、利用）は制限されるべきである」という論題でした。出場者が準備をしている間、Rebust Intelligence 共同創業者である大柴行人氏にAIに関するレクチャーをしていただきました。第4試合のテーマにもなったように、身近でよく聞くもののいまいち理解が難しいAIについて具体的且つわかりやすい説明をしていただき大変勉強になりました。質疑応答では、ディベートを通して抱いた疑問について、積極的に質問する様子が見られました。



大柴行人氏によるレクチャー



質疑応答の様子

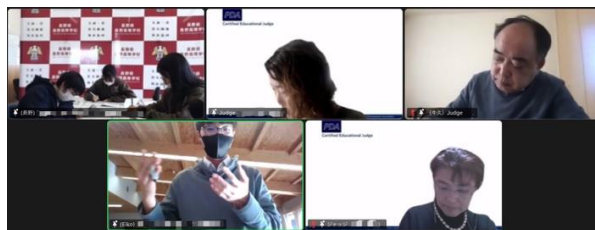
準々決勝は 4 つの会場で行われました。カーボンニュートラルというホットなトピックでの試合でした。難しい論題でしたが、準々決勝ということもあり「気候変動のせいで多くの人が苦しんでいて、行動を制限してそれを防がないといけない」「まず消費者自身の生活を優先しないといけず、かえって逆効果になってしまう」、などの論理的且つ深い分析に裏付けされた主張が飛び交い、どの試合も白熱したものとなりました。



準々決勝（聖光 VS 藤島）



準々決勝（岐阜 VS 神大附属）



準々決勝（聖光 VS 長野）



準々決勝（筑駒 VS 東桜）

準々決勝終了後は、お昼休みです。ZOOM のブレイクアウトルームを使った生徒同士の交流が行われました。遠く離れた高校同士でも簡単に交流できるというオンライン開催の利点を活用し、仲良く話をする姿が沢山見られました。

青森では雪が積もり、その様子を見た関東の高校生が驚く表情も見られ、全国大会ならではの地域を超えた交流が行われました。



生徒交流会の様子（鹿児島中央・聖光・富士）



生徒交流会の様子（栄光・日比谷・青森）

生徒の交流が行われると同時に、各校校長先生、教育委員会の方々とのご挨拶と記念写真撮影をしました。イベント開催が難しい現状の中、この規模の大会が実現したのは校長先生方、教員の皆様のご理解、参加校の皆様のおかげです。この場を借りてお礼申し上げます。



校長先生方との記念写真

昼食後、準決勝進出チームが発表されました。準決勝の論題は「大企業での就職よりも、起業を目指すべきである。」です。準備時間の間、東京大学生産技術研究所特任教授である岩船由美子氏に準々決勝の論題に関するレクチャーをしていただきました。カーボンニュートラルの実現に向けて、消費者と政府や企業の間にはどのような問題が起きているのか、実際の事例をご紹介いただきながら、新たな視点で丁寧に説明してくださいました。生徒からは自分の住んでいる地域で実際に起きている問題を踏まえた質問など、非常にレベルの高い質問がよせられました。



岩船由美子氏によるキーノートスピーチ

準決勝では、安定性の面や成功・失敗の可能性などについてさまざまな分析が飛び交いました。中には、起業支援に関する取り組みが増えている背景を説明するにあたり、近くの大学の取り組みを事例として提示し、具体的に説明する場面もありました。



準決勝での P0I（東桜 VS 聖光）



準決勝 ディベート後のエアー握手（神大附属 VS 栄光）

準決勝の後はいよいよ決勝戦、そしてそれと同時に3位決定戦が行われました。決勝戦や3位決定戦という場にふさわしく、「将来は、日本に住むよりもアメリカに住む方がよい。」という自由度が高く多様な議論を展開できる論題が出されました。

また、決勝、3位決定戦の準備時間の間に、株式会社アドダイス代表取締役 CEO である伊東大輔氏にレクチャーをしていただきました。準決勝のテーマにもなっている起業がどのようなものであるかについて自身の体験、展望を紹介してくださりながら具体的に説明をしていただきました。特に起業に興味を持つ生徒たちから活発に質問が寄せられ、起業に挑戦することが持つ意義という観点で、生徒の視野を広げてくださりました。



伊東大輔氏によるキーノートレクチャー

レクチャーが終わり、いよいよ最後の試合が行われました。幅広い観点から話せるだけに、論理的な主張を立てるのが難しい論題ではありましたが、「どうしてアメリカに移住することでのみ成功できるのか」「なぜ日本でのみ心身ともに平和に暮らせるのか」といったポイントがなぜ自分たちのサイドでのみ起きるのか、またそこから起きる事象の重要性といったことが論理的に説明されており、どちらもとても白熱した試合となりました。



決勝戦（聖光 VS 栄光）



3位決定戦（神大附属 VS 東桜）

決勝戦の後、表彰式が行われました。チーム賞、個人賞の授与が行われ、生徒たちは喜びや悔しさに満ちた表情をしていました。また、文部科学省・外務省後援 第8回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会（ワールド कांग्रेस）への出場権を手に入れた学校も発表されました。

最後に、予選すべてのラウンドでベストディベーターに生徒や、優勝校代表生徒が全国大会の感想を述べ、第8回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会の幕が閉じました。



栄光学園代表生徒による感想

第8回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会結果

<チーム賞>

優勝：栄光学園高等学校

準優勝：聖光学院高等学校

第3位：山形県立東桜学館高等学校

準決勝出場チーム（第4位）：神戸大学附属中等教育学校

準々決勝出場チーム（ベスト8）：

- ・長野県長野高等学校
- ・筑波大学附属駒場高等学校
- ・福井県立藤島高等学校
- ・岐阜県立岐阜高等学校



ベスト8 集合写真

PDA では、ディベートの強いチーム作りをした学校だけではなく、一般生徒向けに、学校全体で即興型英語ディベートの授業導入された学校を称えます。授業導入賞は、提出された書類やカリキュラムから選ばれました。

<授業導入優秀賞>

- ・神奈川県立横浜翠嵐高等学校
- ・福岡県城南高等学校
- ・長野県屋代高等学校

<授業導入賞>

- ・岩手県立一関第一高等学校
- ・秋田県立本荘高等学校
- ・山形県立東桜学館高等学校
- ・学校法人東洋大学附属牛久高等学校

- ・栃木県立宇都宮高等学校
- ・さいたま市立浦和高等学校
- ・東邦大学付属東邦高等学校
- ・都立日比谷高等学校
- ・神奈川県立相模原高等学校
- ・慶應義塾高等学校
- ・長野県長野高等学校
- ・京都府立嵯峨野高等学校
- ・京都市立日吉ヶ丘高等学校
- ・大阪府立北野高等学校
- ・徳島県立城ノ内中等教育学校
- ・福岡県立香住丘高等学校
- ・熊本県立熊本高等学校
- ・熊本県立熊本商業高等学校
- ・鹿児島県立大島高等学校
- ・沖縄県立球陽高等学校

<その他個人賞> (多数、個人名は略)

- ・ジャッジ賞、ベストディベーター賞、POI 賞、文部科学大臣賞 (ベストスピーカー賞)



ベストディベーター賞 集合写真



ベスト P0I 賞 集合写真

以上の結果を受け、第 8 回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会への出場権は、以下の 6 校に進呈されました。

<1 位～3 位> 栄光学園高等学校、聖光学院高等学校、山形県立東桜学館高等学校

<授業導入優秀賞> 神奈川県立横浜翠嵐高等学校。福岡県城南高等学校、長野県屋代高等学校

キーノートレクチャーの感想（抜粋）

- ・カーボンニュートラルのレクチャーが非常に勉強になった。（柏陽）
- ・伊東先生のお話が特に夢があって良いと思いました。（宮崎西）
- ・わかりやすくてよかったです!ディベートの論題と関連付けて考えられたのが良かったです。（都立富士）
- ・興味深いテーマと、わかりやすい講演で、聞いててとても楽しかった。（球陽）
- ・起業家の方や教授の方など、普段関わりのない人たちの話が聞けて面白かった。（彦根東）
- ・現代の問題に関連したお話が聞けて、これからのディベートに活かそうだと思いました。（湘南白百合）
- ・大柴さんのお話を聞くまで、ディベートにおける AI による指導の悪いところはそこま
でないと考えていましたが、人間がプログラムをし、さらに拡張していく AI だからこ
そバイアスを持っているという話が聞けてためになりました。（宇都宮東）
- ・多忙な師走の一大イベント;クリスマスの日に 3 名も私たちのために講演をしてくださ
り、ありがとうございました。内容がとても良かったし、話し方も高校生でもわかるよ
うに下さったので素晴らしいかったです。（宇都宮東）
- ・講師の方が豪華で、レクチャー内容がわかりやすかったです。（藤島）
- ・起業をしたい私にとっては有益だった。（獨協）
- ・カーボンニュートラルのお話など、今までよく分からなかった分野について詳しく知る
きっかけとなり、これからのディベートにも活かしていきたいと思った。（大島）
- ・自分があまり知らない科学系の分野が多くて、自分からは進んで調べない内容だったの
で、新たな発見がたくさんあり、今の日本の現状もしれて良かったです。（日吉ヶ丘）
- ・短時間で、現場の声を直接聞けるのは素晴らしいことです。（教員）
- ・15 分が短く感じました。30 分位聞きたいです。（教員）
- ・理解を深めてくれる、大変貴重な時間でした。（教員）
- ・ためになります!授業でも役に立ちます!（教員）
- ・今、話題になっていたり、問題になっているホットな情報について、それに実際に深く
関わっていらっしゃる方からのご意見をいただけて勉強になりました。（教員）
- ・短い時間で大変参考になる話を聞けた。第一線で活躍されている方ばかりで、刺激を受
けました。（教員）
- ・貴重なお話をありがとうございました。PDA でしか何う事のできないかなり高度なレク
チャーです。（教員）
- ・現場で実践されている方のご意見が聞けてとても良かったです。（教員）

アンケート（抜粋）

【生徒の声】

- ・多くの学校と有意義なディベートができて、とても楽しい機会になりました！（屋代）
- ・本当に楽しかったです！！このような多くの学びを得られる機会を設けて頂いたことに感謝致します。（県立前橋）
- ・とても貴重な経験させて貰えて、この機会に感謝したいです。（三田）
- ・高校生活の一番の思い出になりました！準々決勝で負けてしまって本当に悔しいけれど、やれることはできたと思います。素晴らしい機会をくださって本当にありがとうございました。（長野）
- ・今までで一番いいと思えるディベートをできたと思います。英語嫌いもある程度和らぎ、やってみて良かったと思います。ありがとうございます。機会があれば今度はジャッジもやってみたいです。（青森）
- ・勉強になり、英語学習に対する刺激を得られた貴重な経験になりました。ありがとうございました。（東筑）
- ・各高校の英語力に感心し、より自分たちも練習を積んで上手になりたいと思った。（奈良）
- ・素晴らしい大会を感謝してくれたことに感謝したい。英語の学習へのモチベーションが大変上がりました。（鳥取西）
- ・ジャッジの先生方に沢山のアドバイスを頂け、これから成長できる良い経験になりました。（品川女子）
- ・日本全国の高校とディベートをできたり、交流できたりして貴重な経験となりました。（静岡）
- ・全国トップクラスのスピーチが聞けてとても楽しかったです！！論の詰め方が素晴らしかったし、無駄がなくて聞いてて感動しました。（鶴丸）
- ・結果は悔しかったけど、また参加したいなと思いました。（宇都宮東）
- ・初出場でしたが、全国の皆さんのよりどりみどりのディベートを体験できて本当にたくさんの学びがありましたし、ワクワクドキドキで楽しかったです。（都立武蔵）
- ・この度はこのような貴重な機会を設けていただき、本当にありがとうございました。全国の方々との対戦で自分の改善点を知れたことや、日本全国の高校生と交流できたことは、とても良い思い出になりました。来年は対面での開催ができればいいなと思います。（彦根東）
- ・初めての経験だったのですが、とても良い経験になりました。チームのみんなとも仲が深まり、他校の生徒とも交流することができて嬉しかったです。多くの考えを知ることができ知識の幅が広がりました。（川越）
- ・さいっこうに楽しかったし、もっともっともっと上手になりたいと思う大きなきっかけになりました。本当にありがとうございました！！（岐阜）

- ・夏合宿よりもハイレベルな大会になったと感じました。評価基準が細かく決められているので、それを意識することでより自分の力になったと思いました。(富士見)
- ・自分と同じ高校生がここまでできるのかととても刺激を受けました。(茅ヶ崎北陵)
- ・遠隔の障壁に関係なくディベート出来る体制が整っていてとてもディベートがやりやすかったです。ありがとうございました。(城南)
- ・今までしたことがない論題もあり、「その考え方があったか!!!」と自分の知識がより増えた機会でした！勉強になりました！！(川越)
- ・全国のいろいろな学校と交流、ディベートできる貴重な機会でした！また、ジャッジの方からのコメントも参考になりました。これからより一層頑張ろうと思える大会でした！ありがとうございました！！(一関第一)
- ・とてもいい経験になりました。ジャッジの方々からもとても良いアドバイスをもらい、試合も楽しんでできた。(球陽)
- ・悔しくも、BEST8入りをのがしてしまいましたが、感覚的に今までで1番上手くできたと感じられ、これまでにないくらい達成感がある大会でした。とても貴重な体験が出来ました。本当にありがとうございます。(屋代)
- ・いろいろな学校と交流できて楽しいクリスマスだった。(鹿児島中央)
- ・難しかったのですが、自分の力を知ることの出来た貴重な機会でした。悔しかった事も嬉しかった事も沢山ありました。今回の事を次に活かせるようこれからもディベートを頑張ります！(富士見)
- ・非常に楽しかった。また、今後の活動への意欲も上がった。来年も出たいので、努力していきます。(相模原)
- ・上位の高校の皆さんの試合を見させていただき、発話量や即興での対応力などについてすごいなと思いつつ、どうすればそのレベルまでたどり着けるのかというスモールステップなどが知りたいと思いました。(東筑)
- ・ディベートを始めてから論理性を学ぶことができました。ディベートをやっていないと学べなかったことだと思うので、ディベートをやって本当に良かったです。ありがとうございました！今日はディベート全国大会に出ることができてよかったし、最高のクリスマスプレゼントでした！(青森)
- ・多くの先生方からの指摘をうけ、自分の良い点、改善点を改めて知ることができた。これからのディベートや高校生活で重要なコミュニケーションスキルや思考力をこの2日間で今まで以上に高めることができたと思う。開催していただき本当にありがとうございました！(大島)
- ・初めて参加したが、雰囲気がよくリラックスして参加できた。実際に試合をしてみて、やり方についても学ぶことがあり、成長できたと思う。他の学校の試合を見て、自分の改善点も見つけたので、またいつかディベートに参加し活かしてみたいと思った。(小石川)

- ・最初は不安が大きかったのですが試合をしていく事に自分の言いたいことが少しずつ言えるようになっていって本当に楽しかったです。また機会があれば参加したいと思います！（香住丘）
- ・光栄な事にこのような素晴らしい大会に出場させて頂きました。ディベートとやっていく上で英語力、表現力、発信力等全ての力が均等に必要なのだと気づきました。得た知識、経験を糧にしてレベルアップしていきたいと思います。充実した2日間をありがとうございました。（ウルスラ）

【教員・見学者の声】

- ・生徒にとっても教員にとっても大変勉強になり、楽しい大会でした。来年度もよろしく願いいたします。（教員）
- ・私自身、初めて見させてもらいましたが、遠方の高校の生徒さんと、質の高い議論を交わして、また交流できて、とても興味深かったです。（教員）
- ・いつもお世話になります。生徒には大変刺激になり、感謝しています。私自身も知らないことが多くていつも勉強になります。微力ながらこれからも生徒のために授業やクラブ活動に取り入れていきたいと思います。（教員）
- ・今大会の論題は生徒にとって身近な、また当事者として考えやすい論題が多く、この大会での議論が生徒の未来に役立つものが多かったように感じます。机上の空論になってしまうものよりも、今回の大会の論題のように当事者として考えられる論題の方が教育的意味があると思いました。大会運営の方もかなりスムーズで、タイムマネジメントもほぼ予定通りだったことはとても良い点だと思います。このような教育的機会を提供していただきありがとうございました。（教員）
- ・コロナ禍でなかなか他校と対戦する機会もないので今年も生徒たちが参加できたことは有益であったと思います。ありがとうございました。（教員）
- ・ジャッジとして学びが多くありました。ありがとうございました！（教員）
- ・2日間、貴重な機会をいただき、ありがとうございました。地区の交流大会から、学び大きな日々を過ごすことができました。来年もよろしくお願いします。（教員）
- ・試合だけでなく、論題に即した **key note lecture** や、昼休みの交流タイムなど、盛りだくさんな内容が全て充実していて本当に素晴らしい大会だと思います。（見学）
- ・試合には参加出来ませんでしたが沢山の試合を観戦でき、今の自分の課題や目標が決まりました。（見学生徒）
- ・ほんとに面白かったです！ぜひぜひ次回も参加したいです。次回こそは見学者ではなく実際にメンバーとしてでたいです。（見学生徒）
- ・自分のチームの試合だけでなく決勝トーナメントの試合を見ることができて貴重な経験になった。（見学生徒）

以上